

学力向上に効果のある取組事例

佐伯市立切畑小学校

①基礎的・基本的な知識及び技能の習得

体験活動を重視し、基礎学力の押さえを確実に行う。

- 写真や動画で確認するだけでなく、子どもたちが理科の実験や観察などを通して、実際に体験活動に取り組むことにより、知識を「聞いて覚える」学びだけでなく、「自分で確かめ納得して理解する」学びとなっている。体験を通して得られた実感は記憶に残りやすく、学習内容の定着につながっている。
- 右の写真は、理科の時間、顕微鏡の使い方を学習しているところである。少人数を生かし、一人一台の顕微鏡を活用することで、全員が主体的に観察を行うことができる。理科では、他にも、6年「ものの燃え方ー気体検知管」、4年「電池のはたらきーモーターの回り方」、理科以外では、2年算数科「かさくらべ」、5年「体積」など、さまざまな教科において、学んだことが体験を通して確実な知識になるように工夫実践している。



見通しのあるわかりやすい授業の実践をする。

- 国語・算数における単元計画の掲示により、子どもたちは学習の流れや目標を常に確認することができるため、「今学んでいることが単元全体のどこにつながるのか」を理解しながら学習を進めることができている。
- 見通しをもった学びにより理解が深まり知識技能の定着につながったり、自分の到達度をふり返りながら学習を進めたりすることができ、そのことが主体的に取り組む姿勢につながっている。
- 学習のめあて、学習の流れ、重要な考えやまとめを明確に板書することで、子どもたちは「今、何を学んでいるのか」「どこに向かって学習が進んでいるのか」を常に把握できている。
- 板書が整理されていることで、内容を視覚的に捉えやすくなり、学習の重点がわかりやすい授業になる。
- 家庭学習でノートにまとめる際にもわかりやすい板書は学習内容の定着に大きな効果がある。

